2023 年度 日本機械学会 北海道支部シニア会

総会・交流会議事録

日時：2024 年 2 月 29 日（木） 9：45～12：10
場所：オンライン開催（日本機械学会本部の Zoom ライセンスを使用）
参加者：石坂淳二、伊藤献一、岩本隆志、小川英之、鴨田秀一、岸浪紘機、後藤正芳、小林道明、柴野純一、杉山弘、須田隆徳、臺丸谷政志、近久武美、常本秀幸、長尾信一、根本一司、芳賀基、疋田弘光、松島進、三浦展義
（20 名 五十音順）（敬称略）

１． 総会

総合司会　シニア会運営副委員長　近久武美先生

挨拶　シニア会運営委員長　杉山弘先生

シニア会の目的は、会員相互の親睦・交流ならびに情報交換を図るとともに、学生・生徒や研究者・技術者への協力・支援を通して、シニアの持つ経験・技 術・知恵の継承に努めることにより、社会への啓蒙・啓発・情報発信・会員増強などで支部の発展に寄与することとなっている。シニア会が発足し 10 年になることから、若い会員の入会と会全体の活性化が必要となっている。十分に議論しながら有益な方向を探していきたい。

報告１．2024 年度シニア会運営委員について

小林副委員長から次年度運営委員の依頼経緯について説明があり、運営委員長に杉山、副委員長に小林、近久、長尾、また、運営委員に道央地区５名（小川英之、近久武美　竹澤聡、長尾信一、三浦展義）、道南地区７名（石坂淳二、小野信一、河合秀樹、後藤正芳、杉山弘、臺丸谷政志、芳賀基）、道東地区２名（小林道明、常本秀幸）の選任が報告された。

議題１．2023 年度シニア会活動報告（資料１）

資料１に基づき、２２年度の活動報告が小林副委員長から行われ、了承された。

議題２．2023 年度シニア会決算報告（資料２）

資料２に基づき、２３年度の決算報告が小林副委員長から行われ、了承された。

議題３．2024 年度シニア会活動計画（資料３）および予算（資料４）

近久副委員長から資料 3、４に基づき、２４年度の活動計画の説明およびシニア会の今後の活動方向についての問題提起が行われ、参加者による議論が行われた。その結果、シニア会活動はしばらく継続し、魅力ある懇親の場とするとともに、運営を次世代に引き継げるように、検討することで、活動計画案と予算案を一旦了承する。なお、状況に併せ予算案の変更は可能とする。議論の内容は下記の通り。

議題４．その他

特になし。

※シニア会の今後の方針に関する議論内容（敬称略）

司会進行　シニア会運営副委員長　　近久先生

司会：　シニア会の今後の方針についてご意見を頂きたいのですが、杉山先生からご感想をお願いしたい。

杉山：　北海道シニア会会員名簿によると会員数は 38 名、賛助会員 2 名となっている。清水先生や小川先生など若い方々が入ってきており、今年で 10 年目になるので若手の会員の入会による活性化に期待したいと思っている。

司会：　若い人が引っ張っていってくれると望ましいところだが、多くの方は面倒だなという気持ちもありそうで、正直なところぐいぐい引っ張っていく気持ちが薄いところもある。そのような中でこれからどう進めていくかが課題である。

岩本：　シニア会は機械学会本部の勧めで各支部に開設されたが、各支部間の情報交換はどのようになっているのか？また、活動が停滞していることで他の支部と共通したところがあれば参考になるので教えてほしい。

杉山：　各支部から代表が出て年 1 回の情報交換が行われており、昨年参加した。
当会は会員数 40 名と一番小さいが、活動を見直していく必要があると感じた。他支部は若手の人達が青少年向けの活動などを活発に行っている。北海道は地域の大学や高専が青少年向けの取組をしているので、それは行わず、見学会などの活動に絞ってきたのであまり活発とは言えない。北海道は広いので 3 地区に分けてそれぞれ活動してきたが、60 歳以上の若手を勧誘し活動の幅を広げていければいいと思っている。他支部での青少年向けのセミナーも低調との話があるが、私の知る限りシニア会のメンバーが積極的に活動している様相が、ネットなどからも確認することができる。

岸浪：　違う視点から見ると、60 代早々の若手は業務が継続しており、忙しくて対応できない。
それで、定年後 3 年くらいの少し余裕ができた人達が中心になってやるべきと思う。
機械に関連することだけではなく様々なことを本会で反映させながら、会員相互の見

解を高めていき北海道を豊かにすることへの何らかの寄与をしなければならない。定年後１６年経つが、若い人に任せるのではなく我々年寄りも大いにやっていかなければならないと考えている。小学生の対応も大事だがまだまだ重要なことがあると思う。セミナーは各人の専門性を活かしてネットを使い当会全体で取り組んでいければ何とかなると思う。

司会：　お話は分かるが、具体的に我々が何をできるかが問題と思う。例えばセミナーを企画した場合、聴衆をどのくらい集められるかが問題である。今回の参加者を見るとほとんど若手は居ない。柴野先生、小川先生に参加いただいているがその方々がグイグイ引張って若手をさらに入れていく熱意があるかどうかにかかっている。小川先生いかがでしょうか？

小川：　できることはするが、何をするかがわかっていない。4 月から無職になるのでどのような生活が始まるかがわかっていない。いろんな専門の方が集まる中で、共通の課題で話をすることが思い描けない。率直な感想はこのようなことで、皆でお酒を飲みながらワイワイやるのは楽しいのですが、学会的にはそれでいいのかとも思う。何か議題がないといけないということならなかなか難しいと思う。

岸浪：　現在問題になっていることを皆で文珠の知恵というか論議することも考えられる。

司会：　今日がその第一歩なので、今年度はそのような意見交換をして、そのまま消滅させるのか、活性化させていくのかを今日を含めて何回か意見交換して方向性を決めていくのがいいと思っている。

常本：　やはり組織は 10 年毎に見直しをしなければ活性化しないと考えていて、私の感想として、地域や業界の機械工学を取り囲む環境がシニア会にニーズを求めているのかそこらが北見でやっていると押し掛け女房的にやりたいからお願いしますと協力をお願いしているが、企業からニーズが出てくるとやりやすいけれど、こちらから創り上げて提案していくことはなかなか難しく、10 年経つと熱意も冷めてくるのできちんとした見直し時期に来たなと思う。学会の活動なので予算をもらってできるのだが、任意団体だとすぐに消滅するかっこうになっている。是非見直しをしてシニアの力を活用してくれるといいのだがまだ活用されていない。

小林：　道東地区では隔年で技術セミナーをやっており、一昨年は近久先生、常本先生に講師をお願いし 80 名の参加者、昨年は臺丸谷先生に日本刀の話をしていただき 50 名の参加者があった。内容が興味深いと人が集まるし、経費は機械学会のほうで持ってもらうのでできるが、企画をどうするかをシニア会のメンバーだけで考えると大変で現役の方々と相談しながらやっている。北見では隔年なので、これを全道で旭川なども含め、この面倒を見ていただける方を見つけて企画していけると民間や現役の方にも刺激のある催しはできると思う。予算もあり、どのように企画していけるか皆さんで詰められるといいと思う。経験からこのように言えるが、札幌でも長尾さんがセミナーをやっていたので、ニーズはある。北海道機械工業会とタイアップしてやっていく工

夫はあるかと思うが、やれないことはないと思う。

司会：　ごもっともで、やれないのではなくやる人がいるかどうかで、熱心な人がいればできる。熱心な人がいるかということで、北見は小林先生と常本先生しか見えない。

長尾：　道央地区ではシニア会発足時から 5 年間、北海道機械工道業会と共催で会員企業や中小企業の技術者を対象に 40～50 人規模の基礎技術セミナーを開催していた。講師にはシニア会の先生（野口先生、臺丸谷先生、竹澤先生、近久先生）と工業試験場の研究員にお願いした。ただ、具体的なテーマが見つからず、コロナ禍や私が退職したこともあり継続できなくなった。実施にあたっては、企画、会場、準備、案内などかなりのパワーが必要なので引き継いでくれる方々がいると続けられると思う。シニア会会員が提供できる講演テーマ一覧があると大変参考になる。

司会：　企画するとできると思うので、企画する人次第。60 歳ちょっと過ぎた方々が次の世代を牽引しなければならないが、その方々のやる気で決まる。山本さん、柴野さん、小川さんがこのあたりかと思いますがいかがでしょうか？

柴野：　初めて参加して、蒼々たる方々がいらっしゃるので緊張しました。一方で、驚いたのは 60 代の方々が少なくないことで、活動するとしたらやはり同年代がいた方がいい。人生１００年時代、高齢の方も元気なので、シニア向けのセミナーも面白いと思う。皆さんのシーズ集、一覧集を作るのが大事で出前授業のように A4 判 1 枚のリストを作って広報活動をすると参加者も増えるのかとも思った。時間はあるのでやらなければならないのかとも思っている。

司会：　やらないといけないというプレシャーをちょっと与えるだけでやっていただけるなら我々としては大変ありがたい。若い方のお話をもう少し伺いたい。

岩本：　４月から室蘭に戻る。若い人、学童の啓発は我々の責任だと思う。産業界の我々の知識と経験をどうやって使ってもらうかは重要な役目であり、そういったことを考えながらお役に立つことがあれば積極的に取り組みたい。

司会：　心強いところです。旭川市立大学の須田さんはいかがですか？北見、旭川と道北地区に入り、その地区の核の一人になると思いますが。。

須田：　私自身まだ現役で、シニア会担当の商議委員の幹事でまだ発言する権限はない。先ほど話が出ていたように各大学出前事業が用意されており、どんどん発信されているのでそことの差別化が大事と思う。もしくは一緒にやってもいいように思う、そうすると大学とシニア会の先生方で一緒に進める機会も簡単になり、そうすれば少し気楽になるのかなとお聞きしていた。大学には出前授業向けの冊子が小学生向け、中学生向け高校生向け、一般人向けに用意され、各所に配布されている。高専も同じです。この中にシニア会のメンバーが加わるといいかなと感じていた。

司会：　今までのお話をまとめると、シーズ集のようなものをまとめて情報提供を行うことはできる。その後に、その情報をもとに何かを企画することができる人が現れるかによる。いろんな取次ぎをして頑張りますという人が現れてくれるかによる。常本先生の

お話にはそのようなニュアンスが入っているように思う。今後５年のシニア会の運営にあたって、核になり牽引する人はどなたかとの具体的な話をした場合に、出てくるかどうかにかかっている。そのあたりはどのようにお考えですか？

岸浪：　そうはしないで、そういう仕事は１年ごとにセミナー担当を義務化する委員を作って運営すればいいと思う。中止になることを考える必要はないと思う。

司会：　その方法も一つである。望まないけれども担当を指名する方法になるが、どちらかになる。

岸浪：　各先生が提供できるアイデアをまとめたら、今年はこれで行こうということが自然に出てくると思う。

司会：　そのような考え方も一つである。小川先生、次にお話お願いする。

小川：　できるところは協力させていただきたい。

司会：　たぶんそのような回答になると思う。やはり道央地区で中心になる人が出ないといけないと思う。道南地区は岩本さんが頑張ってくれそうですし、道北地区では出てくるかはまだわからないので、これらを含めて少し時間をかけて今年度探っていく必要がある。

若い人は定年になった後は関わりたくない、抜けさせてくれという人も結構いる。これが実情である。

杉山：　ネットで他の支部を見ると、現役と若いシニア会の人達が一緒になってやってるなとの印象を持った。室蘭では室蘭工大、札幌では北大の現役の人達がシニア会に対する認識がないと思う。そのあたりを考えて活動しなければならないと思っている。北見工大、室蘭工大では６０歳前後の現役はシニア会にあまり入っていないので、コミニュケーションを図らなければいけない。シニア会の活動が認められて参加するなどの情報が不足している。今年１年をかけて各地域の現役の先生方とシニア会メンバーとの情報交換をしてシニア会の活動を見いだす検討をしたいと思っている。

司会：　現役の世代の人達が頑張ってリードしてシニア会をむしろ利用している形が望ましいとのことであるが、そこまでの形にするのは簡単ではない。現役の人達にとっては有難迷惑かもしれない。

杉山：　他の支部では、シニアと現役が情報交換して、小学生向け授業や技術指導を共同でやっているが、北海道ではシニア、現役は独自に活動し、共同での意識はないように思う。シニア活動がどのようなものか理解してもらうような何かをやった方がいいと思う。

司会：　大御所の伊藤先生、やり取りをお聞きいただいてご感想やご意見を頂きたい。

伊藤：　いろいろな意見を聞かせていただきました。このように参加するのは初めてです。あまり固く考えないで、柔らかい話でワイワイやって気軽に参加できるようにすると回を重ねるうちに何かやろうというものが出てくる。大学関係者だけではなく機械工学に関係するいろいろな人も気軽に集まるのもいい。８５歳になるので、病気もあり一

人暮らしのためかなり忙しいが、どこかに貢献することと人との繋がりを大事にすることで人生に潤いを持ちたい。人生を豊かに育んでくれた機械学会シニア会はこれからも存在していくので若い先生も大事であるがお年の先生も重要である。どんな形でもいいから集まって絆を深めていくのがいい。

司会：　固く考えないで、交流を保つ感じでいいのではとのお話でした。
また、会員メンバーは機械学会員に限っていましたが、昨年、道央地区ではシニア会に関心を持っていただく方にお声がけをし、鴨田さん、松島さん２名の方に賛助会員として入会いただいています。初参加ですので感想を頂きます。

鴨田：　今、NPO 法人北海道産業技術支援協会に所属し月２回ほど企業の技術相談窓口を担当している。いろいろな立場の方々とのヒューマンネットワークを活用して技術相談に対応している。多大な実績のあるシニア会の皆さんと情報交換や交流をさせていただければこの上ないことと感じている。

松島：　近久先生と高校、大学が同じということで参加している。７９年日立製作所入社し鉄鋼関係設備の設計、受注をはじめ支社、本社でいろんな仕事をしてきた。先ほど伊藤先生のお話を驚きと共に懐かしくお聞きしました。７年前に日立を退社し、IT 企業のリクルーターとして、北大、高専の優秀な情報系学生を導き入れてきた。鴨田さんと同じく賛助会員としてお役に立てること、また勉強させていただければと思っている。よろしくお願いいたします。

司会：　茶飲み話をするような会でもいいと考えてよい。最近は、大学教員の参加が少なく、企業にいた方々が熱心に参加している印象がある。企業出身の三浦さんご感想などお願いします。

三浦：　シニア会は私にとっては非常に重要で、ありがたく助かっている。すごい大先生や知らなかった先生、本などを書かれている先生とお話ができるのは大変ありがたい。岩本さんが日鋼所長のころシニア会を作られた時、新日鉄にいて参加させてもらった。私は技術士会にも所属しているが、そこでは出前事業にかなりのパワーをつぎ込んで行っているが、シニア会はもっと気楽にやった方がいい。ある意味プレシャーにもなるので、他機関の出前事業にお任せして、特にしなくてもいいと思っている。今年は道南地区主催の見学会に参加したが、注目されてる洋上風力発電やロボットなど大変参考になり今後も見学会があれば参加したい。岸浪先生の風力発電にシニア会で出会ったことから、技術士会で風力発電を検討している部署でご講演をいただいた。ものすごく調べていただき技術士会でも大変感謝されている。多様な研究をされてきた先生が参加しているので、ほかの機関の催しに参加していくことでもいいように思う。近久先生は新エネルギーの本を出されており、ネット会議でお話しできるのはシニア会のお陰と思っている。シニア会をなんとか存続していってほしく、EV や原子力発電など機械以外の原子力の先生なども入ってほしい。高温ガス炉、安全性の高い原子炉などの話題が出る会議になってくれればありがたい。

近久：　皆さんのご感想を聴くと、このメンバーだけでも交流を続けるとありがたいとの感じである。今日は接続数がいつもより多く、これを増やしていく努力をするのが今年の大きなテーマと感じる。そのことなら今年度できるので、数回オンライン会議を企画して、茶飲み話的な意見交換をする。そのぐらいに位置付けながら、この次、次世代を担ってくれる方が出てくるかを見ていくのが適当と思う。
いつも参加されている方からご意見を伺いたい。臺丸谷先生からお願いします。

臺丸谷：伊藤先生のお話から、近久先生のお話まで流れはだいたい同じで、大賛成。まずは懇親会があればいいように思う。構える形でなくて、集まれる形があればいいように思う。その中でいい企画があればやっていただく。昭和６０年に塑性学会北海道支部が90名の会員で発足したが昨年30名に減ってしまい、東北支部に吸収されてしまった。学会活動では人が少なくなると活動ができないと感じている。そのことから学会活動という形を強く出すより、何らかの懇談会の形で継続していくことが良いと考えている。

司会：　活力あるにもかかわらず参加されていない方々に、是非の参加をお願いする声がけを手分けしてするということなのかと思う。

石坂：　10年間、室蘭工大の産学官コーディネータを務め、大学のシーズを民間や役所に展開し、地域、社会の活性化を目指した。シニア会とは基盤が同じところにあると思い参加している。当会の低調な活動をどうするのかであるが、肩ひじを張らずに進めるというご意見には全く同感。シニア会の役割の第一項は、相互の親睦交流並びに情報交換を図ることとなっており、これからどうやっていくかをざっくばらんに話し合い見つけていくことが必要と思う。第二項には、研究者、技術者への支援を行う上で、シニアの持つ経験や知恵を継続伝承していき社会の啓蒙、啓発、情報発信を行うことになっているが、この中ではっきりしたニーズが見えにくくなっており、新メンバーを増やしたり、シーズを展開していくことがコロナ明けの第一の仕事になると思っている。

司会：　このように交流を続けていこというのは共通していますね。

疋田：　今年から運営委員から外れたので気楽に出てきたが、このような深刻な状況とは思わなかった。ここ10年見ると年寄りばかりで、若い人が少なく魅力が分からないのかもしれない。会員になっても出てこない。魅力が分からないところが問題なので、定年近くの若い方を懇親会の講師に呼んで皆さんとディスカッションし、シニア会がどうようなものなのか理解してもらう努力が必要。一方、機械学会シニア会は歴史があるが、学生会もあり、もっと協力できるかもしれない。学生会は大学ごとに独自に活動しており、講師を呼んだりしているので、シニア会から講師の紹介をするなど協力はできる。コネクションができれば顧問教員とも繋がりができて、シニア会の宣伝もできる。シニア会で楽しくやっていくのも重要だが、若い人に魅力を見せる努力も必要。もし自分と若い人との立場が逆だったら、入会すると偉い先生が目の前にたくさんお

られ、また頭を押さえられそうで敷居が高く感じられるのではと思う。若い人にとってシニア会が柔らかいものなんだとの認識を深めてもらうことが大事。できるところは協力していく。

司会：　身近な人を誘って引き入れないと入ってこない。何月何日に会があるので出てくれと強引に勧誘することが必要。実は松島さんも強く勧誘して参加してもらった。

後藤：　道南地区の見学担当を 4～5 件やってきた。訪問メンバーから企業にフィードバックできればよかったが、逆に訪問した方々が刺激を受け、感激したとの感想をいただいたので良い取組だったと思う。室蘭は大小規模の企業があり先端企業もある。昨年は五洋建設と太平電気を見学し、社内の取組に感嘆した。できれば次年度も見学会を続けていきたい。今日、参加している芳賀さん、新たに参加する岩本さんが中心となって進めていただけるので、私は気軽に参加していろいろな刺激を得たいと思っている。見学時にフィードバックするというよりは気軽に参加することでいろいろな輪が広がり新たな切り口での発展が期待できる。是非気軽に参加できる見学会を続けてほしい。

芳賀：　（職場からなので話はできない）

根本：　皆さんの前向きに行くとのお話をお聞きし安心しました。
何事もキャッチフレーズが必要。今、北海道に半導体とノーカーボンの先進地にすることで大いなる取組が進んでいる。このためには機械関連の仕事が必須であるので、就職という意味でも有利である。これに関わる 30 代 40 代の人達を引き込むのも大事と考える。今後もこの会の発展を期待している。

司会：　いただいたご意見をまとめると次のようになる。

- シニア会はしばらく継続する。メンバーの中の親睦会でも構わないから、やり取りをして、気楽に考えるようにする。
- 若い人は入りずらいと思うので、まず身近な人を誘って引きずり込む活動を行う
- 顔見知りになり交流が築かれていけば、次世代の中からやろうという人達が出てくることに期待し、可能性をしばらく見守っていく
- それまでのつなぎの世代が私（近久）と思っているので、今年 1 年はこのような形で継続して見ていきたいと思う。(柴野先生、小川先生聞こえてますか？)

杉山先生から、お話を頂けたらと思います。

杉山：　皆さんの話を聞きいて、なるほどと思うことが多かった。現役の先生方には当会をよくわかってもらっていないので、何らかの方法で知らせていきたい。
ネット会議についての問題はないのですか？また、一般に普及してますか？

司会：　ネット会議はかなり普及している。今日、ビデオオン、マイクオンでこのくらいの人数でネット上不具合を起こしていないことが確認でき、問題なく活用できる。今後 1 時間半から 2 時間ぐらいの会議を数回やるのは非常にプラスになる。リアルでの会議の日程を決めても実際はヒトが集まりずらくネット会議の方が有利である。

なお、再確認ですが、司会（近久）が中心になって話しているが、このような進行でよろしかったでしょうか？もっと話したかった方もいるのではと案じますが？岩本先生？いかがでしょうか？

岩本？：司会進行がいなければ物事が進まない、近久先生のうまいコントロールで全員が話し、要領よくまとめてもらっているのでいいと思う。

司会：　ネット会議の人数が増えてくると進行が難しくなってくることもあるが、どなたかに20分ぐらいのお話を頂くというやり方もある。それも含めて、気軽にネット会議を行う。見学会等情報があれば我々にも流して頂きたい。予算もあるのでそのような運営にしていきたい。

岩本さん、今後の核になる持ち場として最後のまとめいただけますか？

岩本：　初めて出席しました。10年経ってマンネリ化を何とかしたいとの感を共有化できた。今日はいいきかけだったと思います。これからうまく盛り上げていきたい。

臺丸谷：昨年はシニア会を十分楽しませてもらった。10月には北見でのセミナーを楽しませてもらった。お会いできなかった先生方にお会いできてよかった。10月に室蘭での見学会には札幌からも参加いただいた。五洋建設、太平電気共に昔とは全く違う会社に変貌しており大変楽しめた。後藤さんに頑張っていただきいい会社を選んでもらった。全体的にシニア会の取組は良かったと思う。

小林：　（繋がらず）

長尾：　皆さんのお話をお聞きして力強さを感じた。10年経つとマンネリ化が進むなど、なかなか新旧の交代がうまくいかないことから、イベントの見学会や講演会がうまくできる地区があれば、できないところなどひずみも出ていたところ。皆さんのお話を聞くと話し合いの中から新しい試みができてくるという力強さと継続性を感じさせていただいた。これから次の世代に取組をつないでいく大変有意義な会議になったと思う。次世代に向けてありがとうございました。

須田：　私は常本先生の弟子です。内燃機関を教えてもらいもう40年前です。お世話になった先生方もここにいっぱいいらっしゃいます。さきほど話題になった気軽に継続ということにすごく賛成で、継続できる姿でやっていくのが大事と思っている。あり方をこれから考えていくことで賛成しますし、正しい方向性に気軽に入って気軽にやっていける会議になればいいなと、やる時にはカーッとやるというような会議になると入りやすくなり継続もできると思う。このあたりを次の総会が3月にあるのでシニア会の報告として現役の先生にお伝えしていきたい。私の方からは以上です。

司会：　以上のように会議をリードさせていただきました。まとまりがつきいいところなのかなと思いますので、本日はこれで終了させていただいて、また次回ご案内させていただきます。ありがとうございました。

以上

〔議事録作成：シニア会執行部（近久・長尾ほか）〕